

●帰化植物●●●ビロウドモウズイカ・ムギセンノウ

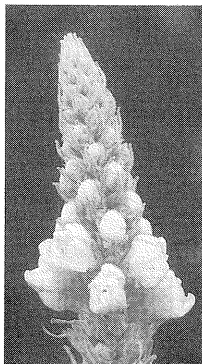
廣 田 伸 七

■ビロウドモウズイカ

1年生(越年生)〔ゴマノハグサ科〕

Verbascum thapsus L. (別名ニワタバコ)

ヨーロッパ原産、明治初期に園芸植物として導入され、当時はニワタバコと稱して植えられていたが逸出、雑草化して今では全国に普通に見られる。秋～春に発生する。全体に白色綿毛が密生し、葉をさわるとビロウドの感じがする。根生葉は長楕円形で先が円い鋸歯があり冬期はロゼットを形成する。茎の葉は互生し、基部は茎に沿って翼状となる。茎は分枝して高さ2m内外。夏から秋にかけ茎先に長さ20～50cmの総状花序をつけ黄色の花を密につける。種子は多数で1株で136,000個という報告もある。和名の由来は全体が灰白色のビロウド状の毛で被われ、雄しべに長毛が生えるので「毛蕊花」(モウズイカ)ビロウドモウズイカと名づけられた。



▲花



▲花期



▲幼植物



▲開花期

■ムギセンノウ 1年生(越年生)〔ナデシコ科〕

Agrostemma githago L. (別名 ムギナデシコ)

ヨーロッパ原産。観賞用に栽培されているが逸出、雑草化している。地域的にはヨーロッパ、アフリカ、アジア、オーストラリア、南北アメリカなどに広がっていて、ムギ栽培にともなって広がったもので、日本には1892年に北海道十勝地方で採集された。欧米では有害の畑雑草となっている。秋に発生し、冬期間はロゼットを形成する。茎は上部で分枝し、高さ30～100cm。全体に伏した絹毛が密生する。葉は対生、線状披針形で先が尖り、基部は相対した葉と融合して肥大する。夏に茎先に径3～5cmの5弁の花をつける。花は



▲花

紅紫色で中心部が白色を帯びる。和名の由来は麦仙翁、麦ナデシコで、葉の形が麦に似ているため、センノウは京都の仙翁寺で見られたことから名付けられた。